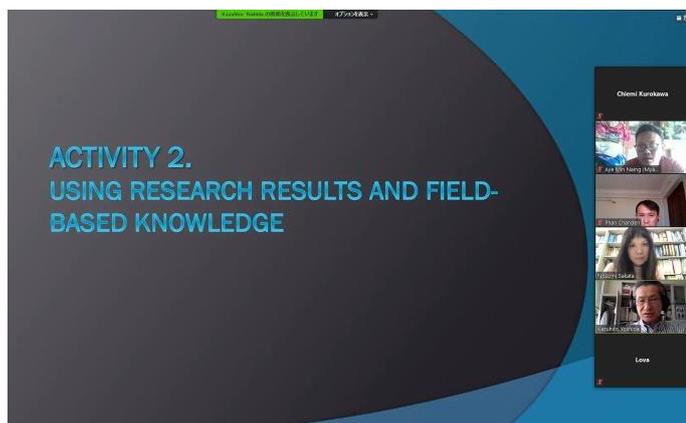


2月24日（水）

本日は2日目のワークショップが開催され、研修員4名が参加しました。「研究結果およびフィールドの知見を利用する（Using research results and field-based knowledge）」というタイトルで、プロジェクト形成に学術的な知見を利用することをねらいとした、2時間のグループ活動と議論が行われました。

まず、研究結果から得られるものを学ぶため、研修員は学術論文誌に掲載された論文を1つ選び、40分間の論文通読、およびグループ間で内容の確認を行いました。研修員らを選んだ論文は、ケニアの中等教育における教員の社会的特性と指導および生徒の成績の関係性に関する研究でした。内容の確認作業においては、2名の研修員を中心に議論



が進んでいたため、10分間の休憩の後、この演習の難易度を尋ねたところ、ほとんどが難しかったと回答しました。特に、統計の読み取りが難しかったようです。そこで吉田先生は、論文の構造および効果的な読み方の助言を与え、多くの研究が教育政策立案の過程で考慮されていない現状を言及しました。

次は、評価報告書から現場の知見を得る演習として、実際2003年から2010年に行われたボリビアの初等教育の質向上プロジェクトに関する評価報告書を通読し、議論を行いました。彼らは自国の事例も紹介しつつ、ボリビアのプロジェクトの評価報告書の内容について議論を行っていました。そして、吉田先生より本日のワークショップの総括として、「政策のレビュー、形成、評価の過程において、研究結果や現場の知見を政策立案に活用する意義と、そのためにはこの政策立案者と現場を知る研究者をつなげる役割を担う人が必要である」と説明がありました。

